



## 熊川村風景

手前の流れは玉川上水、少し離れたところに森田製糸場（上水社）の煙突、明治40（1907）年の熊川の風景である。

「今日ハ鶴沼へ行ク由ナレド、朝雨ナレバ明日行クコトニきめ、又新聞を読み、水車ノ所へ大工ガ車ヲツケルヲ見、又工場ニ入り、工女の糸量ヲ書クヲ見、又昼飯ヲ食シ、又水泳ニ行く途中、弥一時三来りければ一所ニ玉川ニ行キ、水泳シ、又キリトくスヲとるを見、又蜂ノ巢を取り、亦水泳シカヘリテ屋根ニ上リ、Grand mother ニ叱ラれ、又自転車にて押しま停車場の伊勢松さん所へ行き（但シ明日鶴沼へ一番デ行ク約束ラス）、少年界ヲ見、又馬のアブナド取り、カヘリテ与一サント一所ニ荷造リシタリ。」

〔森田浩一日記〕一九〇五（明治38）年七月二十九日の記述  
満一三歳

『森田浩一日記』については、「みずくらいど」4号中の「史料紹介——森田家文書をめぐって」に詳しい。